

大阪大学産業バイオ120年 (2) ビール産業の魅力を探る

大政 健史

タイトルの「産業バイオ120年」の120年は今から120年前の1896年の大阪工業学校醸造科（現・大阪大学大学院工学研究科生命先端工学専攻生物工学コース）の設立から120年を意味しております。「醸造学」という名称は、戦前の1943年には工学的な内容を志向した名称「醗酵工学」に改称され、早くから産業におけるバイオを志向した教育プログラムを実践していました。昨年（2016年）の10月31日に開催した第1回『生物工学会誌』95巻3号Branch Spiritに掲載）に引き続き、2017年3月10日にビール産業に従事する卒業生に講演を頂く「ビール産業の魅力を探る」を開催しました。ビールの銘柄そのものや味わいに焦点があたることはよくありますが、今回はそれを製造する「ビール産業」側に焦点をあてて、実際の製造に携わってきた方々から講演を頂きました。参加者は147名になり、特に多数の学生さんの参加がありました。講演いただきました4件の内容を簡単に紹介いたします。

ガラパゴス化した日本のビール産業

アサヒグループホールディングス（株）社友（前代表取締役副社長）川面克行氏



ビール開化から160年という
ことで、我が国におけるビール
産業の歴史についてお話しい
だきながら、アサヒビールにお
ける技術開発や、商品開発につ
いてもご紹介いただきました。

明治・大正の頃には100社以上
あったビール会社が60年ほど経った昭和初期には2社
に集約されてきた歴史など、初めて知ることばかりで
した。また、消費者のビールに求める感覚的なもの、営業
側からのリクエストを、如何にして実際の製造工程にお
ける技術開発・応用に結び付けるかという技術翻訳の大
切さについても強調され、非常に印象深い講演でした。

“やってみなはれ”から生まれたサントリービール

サントリービール（株）常務取締役、生産研究本部長、
商品開発研究部長 岡賀根雄氏

ビールに新しく参入する、というチャレンジングな試
みが如何にしてなされたのか、についてサントリーの取
組みの歴史や、やらせてみる、やらせてみたいと思わせ

る社内の文化についてもご紹介
いただきました。また、ご自
身が開発に関わられた本年3月
のプレミアムモルツの改革な
ど、常にチャレンジされている
姿勢が非常に印象的な講演
でした。



サッポロの技術開発：ビールからバイオへ

サッポロホールディングス（株）グループ品質保証部長
仲本滋哉氏



サッポロビールの歴史は北海
道の開拓の歴史から始まりま
す。未開拓の地に産業を、とい
うコンセプトで、麦畑からビー
ル製造まで、地域の発展と一体
となったビール産業を目指して
スタートしたこと、現在でも原
材料となる大麦の開発から行っ
ていること、さらには新しい
技術として、のどごしセンサー
や感性科学の応用例など、最
新の研究開発の成果もご紹介
いただきました。

ある醗酵工学科出身者の30年のビール会社での歩み
キリンビール（株）執行役員 生産本部生産部長
前原正雄氏

キリンビールに入社して初め
て携ったレーザー濁度計の研究
開発とその実装への取組みのお
話から始まり、ごく最近までお
勤めになられていた中国にお
けるビール工場の経営など、熱
意と誠実さの重要性、さらには
大学で学ばれた専門知識、仮説
を建て/検証するという考え
方の重要性、そして実験で培
われた体力、さらには何が
何でもやり遂げるという執念
の大切さについても熱く語
っていただきました。



この産業バイオ120年のシンポジウムは、まだまだ企
画予定です。ご期待ください。

